

# だれもが役割のある 活きました 地域の創成

## 文部科学省 地（知）の拠点整備事業 【大学 COC 〈Center of Community〉】

「地(知)の拠点整備事業」は、日本の地方・地域社会が抱える課題の解決に向けて、専門的な教育・研究・地域貢献に全学的に取り組む大学に対する支援事業です。この支援を受けた大学機関は、地方自治体と連携しながら、課題解決に必要な人材、知識・技術、情報を集積し、地域社会の中核的存在として機能することを目指します。

本学では、平成25年度に採択されて以来、岡山県高梁市・兵庫県南あわじ市との緊密な協力・連携のもと、各学部・研究科の専門的特性を活かし、地域の課題解決を図っています。また、高梁市・南あわじ市のそれぞれの地域にて実践、蓄積された課題解決のノウハウや知識、経験を生かし、両地域が抱える「共通の課題」を解決するために、双方のキャンパス間で「シナジー効果」を発揮させ、全学的に課題に取り組んでいます。

本学は、平成2年の開学以来、地域密着型の総合大学として発展してきました。今後、建学の理念の達成を念頭に、COC事業を通して地方社会・地域の課題に関わるこれまでの取り組みをさらに発展させ、「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する大学」を目指します。



# 吉備国際大学

## 建学の理念

学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、  
社会に有為な人材を養成する。

## 学長挨拶



吉備国際大学は、建学の理念『学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する』に基づき、平成2年に開学し、現在、高梁、南あわじ志知および岡山のキャンパスに計6学部11学科を擁する総合大学に発展しました。大学が本部を置く、高梁キャンパスには、社会科学部、保健医療福祉学部、心理学部、アニメーション文化学部があり、さらに通信教育部、心理学部、大学院修士課程(通学制5研究科、通信制4研究科)および博士課程(通学制3研究科、通信制1研究科、1連合大学院)が併設されております。そして、南あわじ志知キャンパスに地域創成農学部(平成30年度より農学部名称変更)、岡山キャンパスに外国語学部を開設しております。

本学は、「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」を教育目標としており、高梁市および南あわじ市に立地する地域密着型総合大学として、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献に努めており地域に根差した人材の育成に取り組んでおります。

こうした中、本学は平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に「だれもが役割のある活きいきした地域の創成」というテーマで採択されました。本事業は、岡山県高梁市、兵庫県南あわじ市にキャンパスを有する本学が、若年人口の減少や地域経済の低迷、社会的な弱者の社会参加の困難性などの共通する課題に対して地域と連携して取り組んでいくものです。2つのキャンパスが、それぞれの持つ教育・研究分野の特徴を活かすことで単独ではなしえない「シナジー効果」を生むことによって、地域が背負った課題の解決を図り、活きいきした地域社会の創成を目指すとともに、地域発展に貢献できる人材を養成します。

「地(知)の拠点整備事業」の採択を受けて、これまでよりなお一層地域との連携を密にして、教職員一丸となって、地域の課題に万全の体制で取り組んでまいります。

吉備国際大学 学長 眞山 滋志

高梁キャンパス



南あわじ志知キャンパス



# 連携自治体メッセージ

## 高 梁 市



高梁市長 近藤 隆則 様

高梁市は岡山県中西部の備中地域に位置し、古来より、教育の中心地として栄え、幕末の偉大な教育・経世家である山田方谷などの先覚者を全国に輩出してきました。現在は吉備国際大学を拠点に学園文化都市として発展し、大学と地域や市が連携して活動することにより、市に活力と賑わいがもたらされています。今後も、この事業によるボランティアの単位化、研究協力などにより、大学と本市の連携がますます深まり、地域の活性化に付与されることを期待しております。

## 南あわじ市



南あわじ市長 守本 憲弘 様

南あわじ市は、淡路島たまねぎやレタス、淡路ビーフ、淡路島3年とらふぐなどの農畜水産物に加え、松帆銅鐸や世界遺産登録をめざす鳴門海峡の渦潮、淡路人形浄瑠璃など、魅力あるふるさと資源にあふれています。

吉備国際大学地域創成農学部では、地域製品のブランド化や6次産業化を産官学民連携による新たな地域活性化策や地域課題解決策の積極的な取り組みが行われています。

今後も、地域と学生が交流と協働を深めながら、地域創生に貢献できる人材の育成や、グローバルに活躍できる人材が輩出されることを期待しております。

## 兵 庫 県



淡路県民局長 吉村 文章 様

兵庫県は、吉備国際大学と連携協定を締結し、農の担い手の育成をはじめ地域課題の解決に向けて取組を進めています。

今、淡路島では、住民や企業、行政などにより、再生エネルギーの活用や食糧自給率の維持などを掲げる「あわじ環境未来島構想」を推進しています。

地（知）の拠点整備事業による各種シンポジウムをはじめとする様々な取組が、同構想の推進や地域と大学の一層の発展に寄与するものと期待しています。

# 吉備国際大学のCOC事業の全体像

## 吉備国際大学の資源

### 教育

高齢者や障がいを持つ人達をケアするだけでなく、地域の伝統技術や地域社会の生き方（生きる力）を学び、大学で学んだ近代科学と融合させて発展させる人材の育成に取り組んでいます。

また、子育て支援、青少年の心理ケアなどの活動を通して、思いやりにあふれ多様な人々に共感できる感性を持つ人材の育成に取り組んでいきます。

- 地域文化の講義
- 園芸療法
- 地域人材による地域連携講義
- 地域へのインターンシップ
- 農業実践コープ教育
- 地域適正技術論
- 6次産業論
- スキルラボにおける医療福祉専門職へのリカレント教育

#### 「新設科目」

- 地域学概論
- 地域貢献ボランティア

### 社会貢献

これまで、吉備国際大学の持つ保健医療福祉の専門性を活かした社会貢献や子育て支援、心のケア等の社会貢献を行ってきましたが、南あわじ志知キャンパスの地域創成農学部（平成30年度より農学部に変更）の専門性も合わせて積極的に地域貢献に取り組み、地域再生、活性化を推進していきます。

#### 経済

- 「地域農産物の活性化」
  - ・6次産業化の展開
  - ・植物クリニックセンターによる農家支援
  - ・育種による新たな農産品創出
  - ・地域の素材を生かした新食品の開発

#### 社会

- 地域施設での園芸療法実践
- 保健福祉研究成果の地域還元
- 臨床心理研究所による地域相談
- ボランティアセンターでの地域相談
- フィットネスラボにて地域住民への健康運動講座
- 地域文化財調査と修復▶「伝統の復活、観光産業活性化」
- 子育て支援

#### 環境

- 自然生態系保全
  - ・獣害防止手法
  - ・森、里、海の連環再生

#### 全般

- 地域連携センターでの協働

### 高梁キャンパス地域連携センター

### 社会

#### ■急速な高齢化と生産年齢

高梁市も南あわじ市も人口は年々減少しています。これは、地域人口の減少は経済的理由よりも、様々な問題を生んでいます。

#### ■コミュニティや絆の希薄

高齢化や核家族化の急速な進行を解決していく「地域力」が高梁市で低下している。地域力の低下は「祭り、伝統芸能」もたらした、子育て支援や障がい者への問題を生んでいます。

### 連携地域

### 経済的課題

#### ■農業経済基盤の衰退

高梁市・南あわじ市共に人口減少と高齢化により、基礎的産業である農業従事者は減少しており、多くの休耕地が見られるようになっています。淡路地域の1次産業は県内有数の生産高（県内の4分の1以上を占め、地域内総生産に占める割合でも6%近くと全国、全県と比べて高い比率）です。しかし、1次産業の総生産はこの20年で半減しています。



# 吉備国際大学のCOC事業の主な取組

## 教育

### 地域貢献ボランティア



「地域貢献ボランティア」では、「地域学概論」で学んだことを学生自身で実践する科目としています。この科目では、学生が課題ごとにグループに分かれ、その課題解決に向け、地域に出かけてボランティア活動を行うことで地域に貢献するスキルを養います。これらの科目は、学生が社会人となった時に積極的に地域貢献を行う意欲の醸成を目的としています。

### 園芸療法



園芸は、その活動自体になじみのある高齢者が多く、種まきから収穫、そして調理して食べる一連の流れを体験できる点で、今後のリハビリテーション医療や保健・福祉の領域で活用されていくことが期待されています。本取組では、学外実習にて、施設入所の高齢者を対象に園芸活動を実践し、学生の高齢者に対する理解力、作業療法評価のスキル、社会人基礎力の向上を目的に活動しています。

### ファーマーズマーケットや六次産業化等の調査及び コープ教育の調査



米国をはじめカナダ、オーストラリア等諸外国に普及しているコープ教育(Cooperative education)について、米国や日本における先進事例の調査を行い、地域密着型のコープ教育のプログラムを充実させ、食農関連産業の発展と地域の活性化に貢献できる専門的知識と技術を備えた有為な人材の養成を目指します。

また、地域農業の振興や農村活性化方策として近年注目を浴びているファーマーズマーケットや農業・農村の六次産業化についても、先進事例の調査を踏まえて考察し、行政、農協、農家、市民らと情報交換や意見交換をすることにより、具体的な提案を行っていきます。

## 社会貢献

### 質の高い保育者養成を目指した 地域の未就学子育て家庭(親子) と学生の交流に関する取組



学生が大学での授業で得た理論、方法論を実際の子供とのかかわりで実践し、確認することは重要であり、実際に教育実習や保育実習で行われてきましたが、時間、環境面で不十分です。そこで、本取組では地域の未就学児子育て家庭の親子との交流事業を通して、教育効果の検証と実践的教育プログラムを検証するとともに、地域の子育て家庭に対する子育て支援のあり方についても提言し、吉備国際大学の持つリテラシーの地域社会への還元することを目的に取り組んでいます。

### 地域の担い手への 心のケア支援活動



近年、子どもや若者の地域生活における発達障害や不登校引きこもり問題への対応が問題に対応が問題になっています。そのため、地域に向いて望ましい支援を考える必要があり、学生に、実験室や面接室だけではなく、地域社会でいかなる心理学的支援が必要かつ可能であるかを学ぶことは、地域の担い手を心理学的にケアする専門育成に必要不可欠です。このような点から、地域の担い手としての心のケアを心理・発達総合研究センターが実践し、地域社会貢献への意義と教育的効果を検証していきます。

### 地域での健康教室開催を 通じた学生教育 ～高齢者を対象とした健康寿命 延伸を目的とした取組～



本取組では学生と教員が協力し合い、地域在住の高齢者を対象とした「健康寿命延伸に視座した教室の開催と運営」に取り組んでいます。卒業後、超高齢社会における保健や医療の現場で働くこととなる学生にとって、貴重な「体験の場」や「実践的な学びの場」になっています。

### 公開講座「まちなかゼミナール」の 設置・運営による地域の活性化・ 「地域創成生涯学習講座」の開催



高梁キャンパスでは、地域の人々の一層の連携促進を目的に、高梁市内の大型店舗「ボルカ天満屋ハピータウン」2階「市民交流センター」にて、吉備国際大学「まちなかゼミナール」を開設しました。「心と体の健康」と「町づくり・人づくり」をキーワードにして、年間20回前後の講座を開講しています。

南あわじ志知キャンパスで開講している「地域創成生涯学習講座」では、地域住民との一層の連携促進を図るべく、地域が抱える特性や課題、地域住民の関心が高いテーマをとりあげ、講座を開講しています。



吉備国際大学 副学長  
吉備国際大学地域貢献推進センター長  
高梁キャンパス地域連携センター長  
**河村 顕治**

吉備国際大学は地域密着型総合大学として、地域社会の学術と文化の中心となり、社会に貢献しうる人材を養成してきました。地(知)の拠点整備事業を推進するために、本学では学長を中心とする教育開発・研究推進中核センターの下に「地域貢献推進センター」を設置しました。地域貢献推進センターは、高梁キャンパス地域連携センター、南あわじキャンパス地域連携センターを通して地域の課題に取り組んでいきます。

# 研究

## 淡路特産「ナルトオレンジ」の六次産業化に向けた総合研究



淡路島の固有種であるナルトオレンジは、担い手不足による栽培面積の減少、周辺環境の悪化や害獣による食害などにより、絶滅の危機にさらされています。そこで本取組では、ナルトオレンジの将来の品種育成につなげることを目的に、遺伝資源の保護や栽培状況の把握、加工品の開発など六次産業化における喫緊の課題等に取り組み、ナルトオレンジの生産量(消費量)の拡大と、それによる地域農産物の発展可能性について研究を実施します。

## 小・中・高等学校が所有する美術作品の調査及び保存修復



吉備国際大学がある岡山県高梁市、兵庫県南あわじ市にある小・中・高等学校に展示されている美術品は空調等設備がないところに設置されているため、汚れや傷がついており修復困難の状態となっています。そこで、本取組では、各学校の美術品を調査し、文化財総合研究センターによって修復し、返却することで、美術品が修復されたことにとどまらず、物を大切にするという学校教育にもつながるように取り組んでいます。

## 地域の特徴のある農水産物生産の再活性化と消費促進



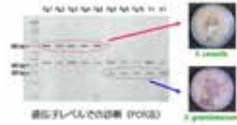
南あわじ産の野菜・果物は健康維持に好ましい機能性を有することがわかっています。定期的な講演を通じてその理解を広め、農家の生産意欲と消費促進を進めていきます。また、イノブタはかつては南あわじの特産物でしたが、近年は野生化して南あわじの農業に獣害を与えています。そこで、学生狩猟グループに猟師のイノブタ捕獲の補助や肉の加工、新製品の試作に携わらせることで、食肉産業の復活と、狩猟生産、加工、販売の六次産業化も目指します。

## 健康寿命延伸のための「高梁健康スポーツ講座」の取組



健康寿命延伸に「運動」が有効であることはよく知られています。本講座では、教員指導のもと学生が中心となって教室運営、科学的根拠に基づく運動指導、市民の体力測定に取り組んでいます。このような実践的な体験は、学生が地域社会に参加し、地域貢献を行うという貴重な経験の場になっています。

## 地域特産農作物の病害実態調査および分子マーカーを利用した病害診断法の開発



レタスやたまねぎなど、南あわじ特産農作物の病害診断法として、環境への影響も少ない分子マーカーを利用した迅速で正確な病害診断法の開発が必要とされています。特にレタスピッグベイン病に重点を置き、病害の早期診断や防除に関する研究を進めることで、地域農作物ブランドの安心・安全性に貢献していきます。

## 野菜とイネを中心とした高度病害抵抗性品種の開発



イネはわが国の主要作物であり、世界においてもトウモロコシやコムギとともに世界三大穀物のひとつです。海外では細長く、パサパサとしたインディカ米が一般的に食べられているのに対し、わが国ではジャポニカ米という世界的にも少数派のイネを栽培しています。インディカ品種と比べると、ジャポニカ品種は初期生育が遅いことから、これらの品種間で発達速度に違いがあると考えられていますが、それが遺伝的にどのように制御されているのかはほとんど分かっていません。本研究ではこのような制御に関わる遺伝子を明らかにすることで、イネの進化の過程でジャポニカ品種とインディカ品種がどのように分化していったのかを解明します。

## 地域ブランド食品加工創作研究



政府の「日本再興戦略」としては、農林水産業の成長産業化を重要な柱として、今後六次産業化等により、農業・農村全体地域の所得を倍増させる目標を掲げています。これをうけて本取組では、「世界をひきつける地域資源ブランドを成長の糧とする誇り高い地域創成」の研究を目的として、「淡路環境未来構想」の推進や食のブランド化に向けた実現の発信を行います。

## 地元農産物の植物保護に関する教育研究と情報発信



植物クリニックセンターでは、環境低負荷型の病害防除を目指して、地元の農業機関と連携して淡路の農産物の病虫害等の発生調査とその防除法に関する教育研究を行い、その成果を年次報告として植物保護シンポジウムを開催して周知しております。また、植物保護の技術と体制の一層の充実を図るため、全国の植物防疫関係者とともに植物病院の機能強化を目指しています。



## 南あわじキャンパス地域連携センター長 谷坂 隆俊

地域創成農学部(平成30年度より農学部に変更)は、農業を中心とした地域の活性化を担う人材の養成を目指して平成25年4月に開設されました。以来、南あわじ市を対象として、地域における問題解決に向けた教育・研究を模索してきましたが、COC事業に参加することによって、地域が抱える問題とその解決法が一層明らかになってきたと実感しています。今後も、さらなる教育・研究の質の向上を目指して取り組みを推進していきます。



**吉備国際大学**

**連絡先：吉備国際大学地域連携センター**

**高梁キャンパス**

岡山県高梁市伊賀町8

TEL : 0866-22-9050

FAX : 0866-22-9407

**南あわじ志知キャンパス**

兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370-1

TEL : 0799-42-4708

FAX : 0799-42-4812



E-mail : [kiu-coc@kiui.ac.jp](mailto:kiu-coc@kiui.ac.jp)

U R L : <http://coc.kiui.ac.jp>